

## 共通教科情報科に求められること

富山県教育委員会 県立学校課  
指導主事 吉田壮志

富山県高等学校教育研究会情報部会の研究紀要第19号発行にあたり、会員の皆様におかれましては、日頃から本県情報教育の改善・充実に多大なご尽力をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。

高等学校および特別支援学校高等部では新学習指導要領実施により、新しい教育課程が始まりました。新学習指導要領に基づいた生徒の資質・能力の育成に向けて、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んでいただき、重ねて感謝申し上げます。

さて、共通教科情報科において必履修科目として新設された「情報Ⅰ」には、プログラミングや統計的な手法も含めたデータの活用など、これまでと比較してより高い専門性が求められる内容が盛り込まれました。特にプログラミングについては、小中学校でも取り扱うものであり、情報教育の大きな変化として注目されています。また、2024年度に実施される大学入学共通テストから「情報」が設けられることとなっており、併せて話題になっています。

ですが、情報科教員として忘れていけないことは、「共通教科情報科の目標とは何か」ということです。将来の予測が難しい現代社会においては、情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見いだした情報を活用しながら他者と協働し、新たな価値の創造に挑んでいくことがますます重要になってきます。こういった情報活用能力について、新学習指導要領では「学習の基盤」とされており、「情報科の学習を通して生徒の情報活用能力を更に高めるようにする」と、共通教科情報科を中心とした指導が求められています。

また、令和4年11月に公表された大学入学共通テスト「情報」の試作問題を見ると、日常的な問題解決の場面を題材としたものが多く出題されており、そのなかで「情報及び情報技術に関する科学的な理解」や「情報から論理的に考察する力」などが問われています。これは新学習指導要領にある「問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成する」という共通教科情報科の目標を踏まえたものであります。生徒が受験において十分に力を発揮するためにも、共通教科情報科の授業を充実させ、探究的な学びや課題解決型学習を実践するなかで資質・能力の向上を図ることが求められます。

今年度、「富山ICT・SD教育支援事業」を通じ、富山大学と連携し、高校情報研究会の情報科教員が中心となって「情報Ⅰ実践実例集」を作成し、県立学校や私立高校に配布いたしました。また情報部会のメーリングリストなどを利用していただき、研修会や授業実践動画などの情報を発信しております。今後とも、先生方の指導充実と改善に役立てられる情報の提供に努めてまいります。

最後になりますが、本会のさらなる充実・発展と関係各位のご健勝、ご活躍をご祈念申し上げます。激励の言葉といたします。